


指導資料

 鹿児島県総合教育センター
令和3年4月発行

国語 第154号

対象
校種

小学校 中学校
義務教育学校 高等学校
特別支援学校



児童生徒が主体的に学ぶ学校図書館の利活用

—小・中学校の実践事例を通して—

学校教育において学校図書館は、読書を通じた豊かな心の育成とともに、確かな学力の育成の基盤となる重要な機能を有している。学校図書館が創造力等を育む読書活動の場である「読書センター」としての機能、児童生徒の主体的な学習活動を支援する「学習センター」としての機能、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を最大限に発揮し、児童生徒が主体的に学ぶ学校図書館の利活用の在り方について事例を基に提案する。

1 学校図書館の整備充実

学校教育において、児童生徒の確かな学力の育成には、言語活動や探究的な学習の充実が必要であり、同時に、児童生徒の豊かな人間性の形成には、読書活動等の充実が求められている。これらの活動の充実のためには、学校図書館が利活用できるよう整備を進めることが重要であることから、「学校図書館法の一部を改正する法律」が（平成26年6月に）定められた。法の改正を受け、文部科学省では、（平成27年6月に）「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」を設置し、学校図書館の運営に係る基本的な視点等について議論を開始した。その成果は、「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」（平成28年10月）としてまとめられている。この報告を踏まえて「学校図書館ガイドライン」が策定され、「学校図書館の整備・充実について（通知）」（平成28年11月29日付け初等中等教育局長）により全国の学校に周知された。このガイドラインでは、学校図書館をめぐる

現状と課題を踏まえ学校図書館の更なる整備充実を図るため、教育委員会や学校等にとって参考になるよう、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方が以下の構成で示された。

- (1) 学校図書館の目的・機能
- (2) 学校図書館の運営
- (3) 学校図書館の利活用
- (4) 学校図書館に携わる教職員等
- (5) 学校図書館における図書館資料
- (6) 学校図書館の施設
- (7) 学校図書館の評価

本稿では、(3)について述べたい。

2 学校図書館の利活用

学校においては、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する各種指導計画等に基づき、計画的・継続的に学校図書館の利活用が図られるよう努めることが望ましい。

(1) 小学校の事例

霧島市立青葉小学校では、読書指導全体計画を基に読書指導年間計画を策定している(表1)。その計画では、各学年の指導目標・重点内容に沿って指導したり、国語科を中心に各教科や総合的な学習の時間で指導内容に合わせて読書活動を行ったりしており、いっ何をすればよいのかが一目瞭然である。カリキュラム・マネジメントの視点から読書活動を中核とした教科横断的な学習の計画が立てられていると言える。

表1 読書指導年間計画

学年	1 年	2 年	3 年
重点内容	○ 印刷文字が当たり前で、情報をとらえる方法を学ぶ。 ○ 絵や写真を見ながら読む。 ○ 文字や声を読み取る。 ○ 絵の文字、人物の表情、場面、構図などを読み取る。	○ 好きなところや興味をもったところを見つけ、人に伝えたい。 ○ 人物の性格や場面の様子などについて、想像を広げながら読む。	○ 読み聞かせについて聞き取る楽しみ、人物の気持や登場人物の態度を想像しながら読む。 ○ 登場人物の心情や場面について読み取る。 ○ 読み聞かせで楽しむ。
月	具体的な指導計画	具体的な指導計画	具体的な指導計画
4	(国) どんおぼしかなしかな【ア】 【ア】	(国) ふきのとう【ア】 【ア】 (国) 赤い靴【ア】 【ア】	(国) きつakisの森【ア】 【ア】 (国) 読書辞典のつかい【ア】 【ア】
5	(国) はなのみち【ア】 (国) くらげ【ア】 (国) はなをたつげ【ア】	(国) はなのみち【ア】 (国) くらげ【ア】 (国) はなをたつげ【ア】	多楽しむ【ア】 多楽しむ【ア】 多楽しむ【ア】
6	(国) 国語館でのまじり【ア】 (国) おむすび【ア】 (国) なつととも【ア】	(国) 国語館でのまじり【ア】 (国) おむすび【ア】 (国) なつととも【ア】	なる記号【ア】 なる記号【ア】 なる記号【ア】
7	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
8	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
9	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
10	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
11	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
12	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
1	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
2	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】
3	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	(国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】 (国) ぼうし【ア】	しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】 しんじゆん【ア】

重点内容を基に、各教科等を教科横断的な視点から関連付け、各学年、月ごとに計画されている。

予想される読書活動が「ブックトーク」や「調べ学習」など具体的に示されている。

図書館利用や読書活動について職員研修を実施しており、計画的・組織的な取組が展開されている。また、学校司書との連携が図られているため調べ学習で積極的に図書館を利用する児童が多い。青葉小学校では、「学習センター」や「情報センター」としての機能が充実していると考えられる。

具体的には、図書館横の空き教室を第二図書館として設置し、国語・漢字辞典、百科事典、地域の情報誌、パンフレットなどを揃え、主に調べ学習に活用している。また、児童に親しみをもって活用してもらうために職員に

名称を募集して、「はてなの森」と名付けた(写真1)。所蔵している資料には、開校当初からのPTAだよりや地域の資料など、総合的な学習の時間等で活用できる資料が多数ある。「はてなの森」には、学習に役立つ資料があるという意識が児童に根付いているようである。



写真1 第2図書館～はてなの森～

このように、児童が主体的に学び、確かな学力を身に付けていくためには、次のような指導が必要である。

- それぞれの学習活動や学習の過程で理解させたいこと、身に付けさせたいことを具体的に捉えた上で、ねらいを達成するために必要な事前の指導、調べ学習に取り組ませる際の関わり方を考え、児童生徒の実態に応じて実行する。
- 学習の成果の見届け(評価)の方法や、その結果の生かし方を具体的に考えておき、実際の学習場面で実践する。

(『調べ学習ガイド』平成30年3月鹿児島県図書館協会より)

6年生 総合的な学習の時間「見つめよう、将来の夢」では、霧島市立図書館、国分高校、国分中央高校、国分中学校、鹿児島県立図書館から、相互貸借等で借用した二百冊以上の図書資料を活用している(写真2)。



写真2 図書資料を活用する児童

このように、自校の資料に限りがある場合は、学習計画に基づき、資料を揃える工夫が必要である。

(2) 中学校の事例

学校図書館の「情報センター」としての機能である情報の収集、選択・活用能力を育成する事例として鹿児島市立甲南中学校の実践を紹介したい。甲南中学校では、国語科授業を中心に学校図書館の利活用の可能性を探っている。今回の授業では、中学校国語 第2学年 単元名：「平敦盛VS熊谷次郎直実―「平家物語」総選挙―」を実践した。

『平家物語』では多くの魅力的な人物が登場するが、今回の学習材は、「敦盛の最期」の熊谷次郎直実と平敦盛である。本授業では、登場人物に焦点を当てて教科書掲載文以外の情報を調べることで人物の心情や行動に迫る目的がある。本単元の言語活動は、より魅力を感じる人物をどちらかを選び、その人物に投票した理由を根拠とともに説明することである。その際、調べる情報が図書館資料で不足する場合は、インターネットを活用する（写真3）。



写真3 調べ学習の様子

そのため、授業の意図を学校司書に伝え、「平家物語関連本（作品・人物）リスト」等を準備しておくことが大切である。また、図書館で授業を行う際は、ホワイトボード等を設置し、教科書以外の様々な情報を収集し、選択させ、学習課題の解決に活用できるようにすることが大切である（写真4）。

学習目標や情報収集する際のキーワードを提示している。

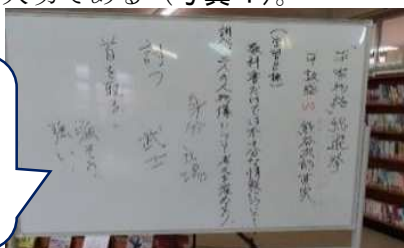


写真4 学習目標の板書

限られた調べ学習の中で、班の4人が、手分けしながら得られた情報をメモする「読み取りメモ」を活用していた。「読み取りメモ」には、マッピングしたり、箇条書きしたり、敦盛と直実の人物像を2つに分けて整理したりしていた。「読み取りメモ」の下段には、更にメモ欄があり、気になる台詞や言葉、上段と関連付けて疑問や発見、気付きメモを記入する欄が設けられており、人物の行動の転換点に疑問をもったり、人物像を予想したりしていた。主に2類の社会科学の分野で歴史や伝記の図書、3類で生活様式や風俗、9類の文学で登場人物のストーリーを確認するなどしていた。その後、語彙集を参考に、投票する人物の人物像を含む投票理由をまとめる。根拠となるエピソード、人物像の解釈等の条件を守り、投票原稿を見直す。そして模擬選挙を経て、改善点を修正し、選挙（投票）を実施する。

今回の授業では、調べ学習で人物の関係性やそれぞれの武士の生き様、源平合戦の状況等の情報を得ることが人物像の読み取りに欠かせないものとなった。

3 「情報センター」の機能の充実に向けて

これからの学校図書館は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等を横断的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望まれる。情報活用能力は、これからの変化の激しい社会を生きる児童生徒にとって欠くことのできない資質・能力である。情報活用能力を高めるため、どの学年で、どのような情報活用スキルを、どの程度指導すればよいか（親しむ・習得する・活用するなど、学年の発達段階に応じた段階）を明確にして、情報活用プロセスを学年段階に関連付けて系統的・組織的に配列し、まとめた計画を組むとよい。

